

# きょうだい関係と性格

## — 1. YG 検査による検討 —

### A Study on the Sibling Relations and Personality

#### — 1. Investigation by Y-G Personality Test —

白 佐 俊 憲

Toshinori SHIRASA

### I はじめに

子供の性格を規定する要因の一つとして、きょうだい関係（出生位置・出生順序など）があげられる。わが国においては、昔から広く、総領の甚六、次男のきかん坊、三男の三郎、末っ子の甘えん坊、一人っ子のわがままっ子などと言われ、きょうだい関係が、子供の性格形成に大きな関わりをもつとされてきた。

この問題に関しては、古くから内外において関心をもたれ、近年、わが国においても心理学の分野などで実証的な研究が数多くなされてきたところである。その結果は、きょうだい関係によって、性格的な差異は特に認められないとする報告もあるが、何らかの性格的な差異が認められるという報告のほうが多い。ただし、その差異の内容と程度は、時代とともに社会的・文化的環境が変化することもあって、必ずしも一致していない。

きょうだい関係は、出生の位置・順序ばかりでなく、本人の性別、きょうだい数、きょうだいの性別構成や年齢差によって異なり、家庭の経済的・文化的背景の相違や親の期待の相違などとも関連する。それだけ、性格形成への関わりも複雑な様相を呈することになる。また、成長につれて、子供の生活圏は次第に広がり、家庭以外で過ごす時間も多くなる。当然のこととして、子供は、家族以外の人々の影響や社会的・文化的影響を強く受けるようになる。したがって、年齢の増加とともに、きょうだい関係・親子関係は量的にも質的にも変化するが、その影響は相対的に低減すると判断される。

ところで、このきょうだい関係の影響（つまり、きょうだい関係の違いによる特徴的性格）は、成人になってもまだ残存しているのであろうか。その残存する姿を描写した文学作品などは相当数あるが、成人を対象にして実証した科学的研究はほとんどない。そこで、本研究では、きょうだい関係の影響がどの段階まで残存するかを問題として取り上げる。

もし、成人になっても残存する形で、きょうだい関係と性格の間に何らかの関連が認められるとすれば、その関連は、成人に至るまでの発達段階のどの時期においても認められるはずである。そして、その関連は、様々な方法によってとらえることができるであろうが、科学的手法によって作成された性格検査の結果にも何らかの差異となって表れるものと考えられる。

第1報にあたる本研究は、発達段階の上で青年後期に達した者を対象とし、これらの者に標準性格検査を実施し、きょうだい関係の違いによって青年の性格に差異が見られるかどうか、また、見られるとすれば、どのような差異が見られるかを検討するものである。

すなわち、この研究は、きょうだい関係によって青年の性格は異なるであろうという予想のもとに、出生位置などと青年の性格は何らかの関連があるという仮説を立て、これを実証しようとするものである。

なお、きょうだい関係は、一般的な出生位置・出生順位による分類のほか、きょうだい数による分類、性別構成による分類も可能なので、本研究では、探索的な検討を多面的に行うために可能な分類をすべて採用した。

## Ⅱ 方 法

### 1. 検査の実施方法

#### (1) 使用検査

この研究のために採用した標準性格検査は、多方面で用いられている質問紙形式の「矢田部ギルフォード性格検査（以下、YG検査と略す）」である。用いた検査用紙は、竹井機器工業販売の「YG性格検査・一般用」である。「YG検査」の説明については、周知の標準性格検査であり、手引書・参考書<sup>34)~35)</sup>が出版されているので、ここでは省略する。

#### (2) 実施時期・対象者

検査は、交差妥当性（普遍妥当性・一貫性）を検討するために、類似条件で時期・対象者を変えて、1989年・1992年の2回実施した。2回とも、実施時期は4月である。

検査の対象者は、女子の短大生とした。対象学生は、1989年4月・1992年4月に北海道女子短大に入学した1年目学生（90%以上が18歳）である。有効数は、1989年実施分が909、1992年実施分が836であった。

### 2. 結果の処理

#### (1) 分析方法

YG検査の結果は、二つの方法によって分析・検討した。第1は、性格類型（下記の①参照）について、各対象群の頻度を集計し、性格類型（5類型）の分布がきょうだい関係によって異なるかどうかを検討した。第2は、12個の下位尺度（性格特性。下記の②参照）について、尺度別に各対象群の標準点頻度を集計し、標準点（5段階）の分布がきょうだい関係によって異なるかどうかを検討した。これらの分布差の統計的な有意性は $\chi^2$ 検定で確認した。

- ① 性格特徴を総括的に理解するための類型……A類（平均型）、B類（不安定不適応積極型）、C類（安定適応消極型）、D類（安定適応積極型）、E類（不安定不適応消極型）。詳細に典型・準型・混合型に分けると、15類型になる。
- ② 性格特徴を分析的に理解するための尺度<sup>34)</sup>……D（抑うつ性）尺度、C（回帰性傾向）尺度、I（劣等感）尺度、N（神経質）尺度、O（客観性欠除）尺度、Co（協調性欠除）

尺度, Ag (愛想の悪いこと) 尺度, G (一般的活動性) 尺度, R (のんきさ) 尺度, T (思考的外向) 尺度, A (支配性) 尺度, S (社会的外向) 尺度。

## (2) きょうだい関係の分類

基本となる「きょうだい関係」の分類は、分析・検討を多面的に行うために、次のものを採用し、それぞれの分類による検討のほか、二つの分類の組み合わせによる検討も実施した。

- ① 出生位置による分類……長子, 中間子, 末っ子, 一人っ子。一般的には、「出生順位による分類」とされるものであるが、本研究では③と区別するために、この名称にした。
- ② きょうだい数による分類……一人っ子, 二人っ子, 三人っ子, 四人っ子, ……。
- ③ 出生順位による分類……第1子, 第2子, 第3子, 第4子, ……。
- ④ 性別構成による分類……男子のみ, 男女混在, 女子のみ。

## Ⅲ 結果及び考察

### 1. 出生位置別検討

第1の検討は、出生位置別分類によって実施した。きょうだい関係の分類の中で、最も一般的に使用されているのは、出生したときの位置によるもので、次のように①長子, ②中間子, ③末っ子, ④一人っ子の四つに分けるものである。

- ① 長子……上にはきょうだいがいないが、下にはきょうだいがいる者。
- ② 中間子……上にも下にも、きょうだいがいる者。
- ③ 末っ子……上にはきょうだいがいるが、下にはきょうだいがいない者。
- ④ 一人っ子……上にも下にも、きょうだいがいない者。

表1及び表2は、きょうだいの出生位置によって、性格5類型の分布が異なるかどうかを調

表1 出生位置別性格類型—①1989年調査—

単位：人(%)

類型	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
A 類	164 (18.0)	76 (19.0)	19 (20.0)	57 (16.2)	12 (19.4)	$\chi^2=7.162$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
B 類	272 (29.9)	124 (31.0)	28 (29.5)	106 (30.1)	14 (22.6)	
C 類	47 ( 5.2)	25 ( 6.3)	4 ( 4.2)	15 ( 4.3)	3 ( 4.8)	
D 類	352 (38.7)	147 (36.8)	34 (35.8)	143 (40.6)	28 (45.2)	
E 類	74 ( 8.1)	28 ( 7.0)	10 (10.5)	31 ( 8.8)	5 ( 8.1)	
合 計	909 (99.9)	400(100.1)	95(100.0)	352(100.0)	62(100.1)	

表2 出生位置別性格類型—②1992年調査—

単位：人(%)

類型	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
A 類	160 (19.1)	60 (17.2)	16 (19.5)	73 (22.1)	11 (14.9)	$\chi^2=6.915$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
B 類	267 (31.9)	108 (30.9)	28 (34.1)	106 (32.0)	25 (33.8)	
C 類	42 ( 5.0)	15 ( 4.3)	5 ( 6.1)	18 ( 5.4)	4 ( 5.4)	
D 類	293 (35.0)	133 (38.1)	28 (34.1)	106 (32.0)	26 (35.1)	
E 類	74 ( 8.9)	33 ( 9.5)	5 ( 6.1)	28 ( 8.5)	8 (10.8)	
合 計	836 (99.9)	349(100.0)	82 (99.9)	331(100.0)	74(100.0)	

べてみたものである。2回の結果はいずれも有意な差が認められず、出生位置によって性格類型に差異があるであろうという予想は実証されない。また、2回の結果に一貫した傾向も認められない。更に、より厳密な条件で検討するために、二人っ子及び三人っ子のみについて整理してみたが、同様に意味のある差異は認められない(表3・4)。

また、性格特徴を分析的にとらえるために、12尺度の分布についても比較・検討してみたが、統計的に有意差の認められたのは、表5～7のように、全体において1尺度(R尺度)、三人っ子において2尺度(D尺度、N尺度)にすぎない。これも、2回の調査で一貫して有意差が認

表3 二人っ子・三人っ子の出生位置別性格類型—①1989年調査— 単位：人(%)

類 型	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
A 類	60 (20.1)	44 (17.5)	15 (16.0)	14 (17.7)	12 (13.8)	二人っ子： 有意差なし 三人っ子： 有意差なし (詳細数値 は省略)
B 類	86 (28.8)	77 (30.6)	37 (39.4)	22 (27.8)	25 (28.7)	
C 類	19 ( 6.4)	12 ( 4.8)	5 ( 5.3)	3 ( 3.8)	3 ( 3.4)	
D 類	112 (37.5)	97 (38.5)	31 (33.0)	31 (39.2)	40 (46.0)	
E 類	22 ( 7.4)	22 ( 8.7)	6 ( 6.4)	9 (11.4)	7 ( 8.0)	
合 計	299(100.2)	252(100.1)	94(100.1)	79 (99.9)	87 (99.9)	

表4 二人っ子・三人っ子の出生位置別性格類型—②1992年調査— 単位：人(%)

類 型	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
A 類	44 (17.4)	57 (22.9)	15 (18.1)	11 (17.2)	14 (18.7)	二人っ子： 有意差なし 三人っ子： 有意差なし (詳細数値 は省略)
B 類	82 (32.4)	81 (32.5)	20 (24.1)	21 (32.8)	23 (30.7)	
C 類	13 ( 5.1)	11 ( 4.4)	0 ( - )	5 ( 7.8)	7 ( 9.3)	
D 類	91 (36.0)	76 (30.5)	40 (48.2)	23 (35.9)	27 (36.0)	
E 類	23 ( 9.1)	24 ( 9.6)	8 ( 9.6)	4 ( 6.3)	4 ( 5.3)	
合 計	253(100.0)	249 (99.9)	83(100.0)	64(100.0)	75(100.0)	

表5 R尺度の標準点分布(全体, 出生位置別, 1992年調査) 単位：人(%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子	検定の結果
1	10 ( 1.2)	6 ( 1.7)	0 ( - )	4 ( 1.2)	0 ( - )	
2	65 ( 7.8)	26 ( 7.4)	9 (11.0)	24 ( 7.3)	6 ( 8.1)	
3	212 (25.4)	79 (22.6)	20 (24.4)	97 (29.3)	16 (21.6)	
4	354 (42.3)	146 (41.8)	34 (41.5)	149 (45.0)	25 (33.8)	
5	195 (23.3)	92 (26.4)	19 (23.2)	57 (17.2)	27 (36.5)	
合 計	836(100.0)	349 (99.9)	82(100.1)	331(100.0)	74(100.0)	

表6 D尺度の標準点分布(二人っ子・三人っ子, 出生位置別, 1989年調査) 単位：人(%)

標準点	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
1	48 (16.1)	33 (13.1)	15 (16.0)	13 (16.5)	11 (12.6)	三人っ子： $\chi^2=15.597$ $df=8$ $P<.05$ 有意差あり
2	71 (23.7)	77 (30.6)	27 (28.7)	25 (31.6)	33 (37.9)	
3	115 (38.5)	79 (31.3)	24 (25.5)	32 (40.5)	32 (36.8)	
4	47 (15.7)	47 (18.7)	18 (19.1)	7 ( 8.9)	7 ( 8.0)	
5	18 ( 6.0)	16 ( 6.3)	10 (10.6)	2 ( 2.5)	4 ( 4.6)	
合 計	299(100.0)	252(100.0)	94 (99.9)	79(100.0)	87 (99.9)	

表7 N尺度の標準点分布(二人っ子・三人っ子, 出生位置別, 1992年調査) 単位:人(%)

標準点	二人っ子		三人っ子			検定の結果
	長子	末っ子	長子	中間子	末っ子	
1	24 (9.5)	24 (9.6)	15 (18.1)	5 (7.8)	2 (2.7)	三人っ子: $\chi^2=17.035$ $df=8$ $P<.05$ 有意差あり
2	64 (25.3)	54 (21.7)	22 (26.5)	19 (29.7)	26 (34.7)	
3	99 (39.1)	96 (38.6)	30 (36.1)	18 (28.1)	27 (36.0)	
4	54 (21.3)	63 (25.3)	14 (16.9)	20 (31.3)	20 (26.7)	
5	12 (4.7)	12 (4.8)	2 (2.4)	2 (3.1)	0 (-)	
合計	253 (99.9)	249(100.0)	83(100.0)	64(100.0)	75(100.1)	

められたわけではない。(今後の他の研究結果との比較を可能にするために, 全体の尺度別の詳細数値表を一括して付表として示しておく)

したがって, これらの結果を総合してみると, きょうだいの出生位置と性格の間に何らかの関連があるということは, 本研究の結果では検証されない。

## 2. きょうだい数別検討

第2の検討は, きょうだい数別分類によって実施した。きょうだいの人数による分類は, 一人っ子, 二人っ子, 三人っ子, 四人っ子, ……と分けられる。本研究では, 対象者数の関係で, 次のように①一人っ子, ②二人っ子, ③三人っ子, ④四人以上の4分類にとどめた。

- ① 一人っ子……子供は自分だけで, 他にきょうだいがいない者。
- ② 二人っ子……きょうだい数が自分を含めて2人の者。
- ③ 三人っ子……きょうだい数が自分を含めて3人の者。
- ④ 四人以上……きょうだい数が自分を含めて4人以上の者。

表8及び表9は, きょうだい数によって, 性格5類型の分布が異なるかどうかを調べてみた

表8 きょうだい数別性格類型—①1989年調査—

単位:人(%)

類型	全体	一人っ子	二人っ子	三人っ子	四人以上	検定の結果
A類	164 (18.0)	12 (19.4)	104 (18.9)	41 (15.8)	7 (19.4)	$\chi^2=4.265$ $df=12$ $P>.975$ 有意差なし
B類	272 (29.9)	14 (22.6)	163 (29.6)	84 (32.3)	11 (30.6)	
C類	47 (5.2)	3 (4.8)	31 (5.6)	11 (4.2)	2 (5.6)	
D類	352 (38.7)	28 (45.2)	209 (37.9)	102 (39.2)	13 (36.1)	
E類	74 (8.1)	5 (8.1)	44 (8.0)	22 (8.5)	3 (8.3)	
合計	909 (99.9)	62(100.1)	551(100.0)	260(100.0)	36(100.0)	

表9 きょうだい数別性格類型—②1992年調査—

単位:人(%)

類型	全体	一人っ子	二人っ子	三人っ子	四人以上	検定の結果
A類	160 (19.1)	11 (14.9)	101 (20.1)	40 (18.0)	8 (21.1)	$\chi^2=7.175$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
B類	267 (31.9)	25 (33.8)	163 (32.5)	64 (28.8)	15 (39.5)	
C類	42 (5.0)	4 (5.4)	24 (4.8)	12 (5.4)	2 (5.3)	
D類	293 (35.0)	26 (35.1)	167 (33.3)	90 (40.5)	10 (26.3)	
E類	74 (8.9)	8 (10.8)	47 (9.4)	16 (7.2)	3 (7.9)	
合計	836 (99.9)	74(100.0)	502(100.1)	222 (99.9)	38(100.1)	

ものである。2回の結果はいずれも有意な差が認められず、きょうだい数によって性格類型に差異があるであろうという予想は実証されない。2回の結果に、一貫した傾向も認められない。

また、性格特徴を分析的にとらえるために、12尺度の分布についても比較・検討してみたが、どの尺度でも有意差は認められない。(尺度の詳細数値表は紙面の関係で省略する)

したがって、これらの結果を総合してみると、きょうだい数と性格の間に何らかの関連があるということは、本研究では検証されない。

### 3. 出生順位別検討

第3の検討は、出生順位別分類によって実施した。生まれたときの順位による分類は、第1子、第2子、第3子、第4子、……と分けられる。本研究では、対象者数の関係で、次のように①第1子、②第2子、③第3子以降の3分類にとどめた。

- ① 第1子……きょうだいの中で1番目に生まれた者。長子と一人っ子が該当する。
- ② 第2子……きょうだいの中で2番目に生まれた者。3人以上の2番目中間子と2人きょうだいの末っ子が該当する。
- ③ 第3子以降……きょうだいの中で3番目以降に生まれた者。3人きょうだいの末っ子、4人以上の3番目以降の者が該当する。

表10及び表11は、出生順位によって、性格5類型の分布が異なるかどうかを調べてみたものである。2回の結果はいずれも有意な差が認められず、出生順位によって性格類型に差異があるであろうという予想は実証されない。2回の結果に、一貫した傾向も認められない。

また、性格特徴を分析的にとらえるために、12尺度の分布についても比較・検討してみたが、どの尺度でも有意差は認められない。(尺度の詳細数値表は紙面の関係で省略する)

したがって、これらの結果を総合してみると、きょうだいの出生順位と性格の間に何らかの

表10 出生順位別性格類型—①1989年調査—

単位：人 (%)

類 型	全 体	第 1 子	第 2 子	第 3 子 以 降	検定の結果
A 類	164 (18.0)	88 (19.0)	61 (18.0)	15 (13.9)	$\chi^2=5.523$ $df=8$ $P>.70$ 有意差なし
B 類	272 (29.9)	138 (29.9)	102 (30.1)	32 (29.6)	
C 類	47 ( 5.2)	28 ( 6.1)	16 ( 4.7)	3 ( 2.8)	
D 類	352 (38.7)	175 (37.9)	129 (38.1)	48 (44.4)	
E 類	74 ( 8.1)	33 ( 7.1)	31 ( 9.1)	10 ( 9.3)	
合 計	909 (99.9)	462 (100.0)	339 (100.0)	108 (100.0)	

表11 出生順位別性格類型—②1992年調査—

単位：人 (%)

類 型	全 体	第 1 子	第 2 子	第 3 子 以 降	検定の結果
A 類	160 (19.1)	71 (16.8)	72 (22.2)	17 (19.1)	$\chi^2=7.741$ $df=8$ $P>.30$ 有意差なし
B 類	267 (31.9)	133 (31.4)	105 (32.4)	29 (32.6)	
C 類	42 ( 5.0)	19 ( 4.5)	16 ( 4.9)	7 ( 7.9)	
D 類	293 (35.0)	159 (37.6)	103 (31.8)	31 (34.8)	
E 類	74 ( 8.9)	41 ( 9.7)	28 ( 8.6)	5 ( 5.6)	
合 計	836 (99.9)	423 (100.0)	324 (99.9)	89 (100.0)	

関連があるということは、本研究では検証されない。

#### 4. 性別構成別検討

第4の検討は、性別構成別分類によって実施した。性別構成による分類は男子のみ・男女混在・女子のみの3分類が基本になるが、本研究では、女子のみを対象にしているので、二人っ子的場合と三人っ子的場合に限定して、①(自分以外のきょうだいが)女1人,男1人(二人っ子的場合),②(自分以外のきょうだいが)女2人,女1・男1人,男2人(三人っ子的場合),③弟のいる姉,妹のいる姉,兄のいる妹,姉のいる妹(二人っ子的場合)に分けた。

表12~15は、きょうだいの性別構成によって、性格5類型の分布が異なるかどうかを調べてみたものである。2回の結果はいずれも有意な差が認められず、性別構成によって性格類型に差異があるであろうという予想は実証されない。2回の結果に、一貫した傾向も認められない。

また、性格特徴を分析的にとらえるために、12尺度の分布についても比較・検討してみたが、統計的に有意差の認められた尺度は、表16~18のように、二人っ子において1尺度(I尺度)、三人っ子において1尺度(C尺度)にすぎない(有意差が認められない尺度の詳細数値表は省

表12 二人っ子・三人っ子の性別構成別性格類型—①1989年調査— 単位：人(%)

類 型	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	女 1 人	男 1 人	女 2 人	女1男1人	男 2 人	
A 類	55 (19.9)	49 (17.8)	10 (13.9)	22 (16.5)	9 (16.4)	二人っ子： 有意差なし 三人っ子： 有意差なし (詳細数値 は省略)
B 類	76 (27.5)	87 (31.6)	21 (29.2)	46 (34.6)	17 (30.9)	
C 類	17 ( 6.2)	14 ( 5.1)	2 ( 2.8)	7 ( 5.3)	2 ( 3.6)	
D 類	107 (38.8)	102 (37.1)	36 (50.0)	48 (36.1)	18 (32.7)	
E 類	21 ( 7.6)	23 ( 8.4)	3 ( 4.2)	10 ( 7.5)	9 (16.4)	
合 計	276(100.0)	275(100.0)	72(100.1)	133(100.0)	55(100.0)	

(注)「女1人」「男1人」「女1男1人」「男2人」とは、自分以外のきょうだいの性別及び人数を示す。

表13 二人っ子・三人っ子の性別構成別性格類型—②1992年調査— 単位：人(%)

類 型	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	女 1 人	男 1 人	女 2 人	女1男1人	男 2 人	
A 類	44 (18.7)	57 (21.3)	10 (17.5)	20 (18.9)	10 (16.9)	二人っ子： 有意差なし 三人っ子： 有意差なし (詳細数値 は省略)
B 類	88 (37.4)	75 (28.1)	19 (33.3)	29 (27.4)	16 (27.1)	
C 類	14 ( 6.0)	10 ( 3.7)	1 ( 1.8)	8 ( 7.5)	3 ( 5.1)	
D 類	69 (29.4)	98 (36.7)	23 (40.4)	40 (37.7)	27 (45.8)	
E 類	20 ( 8.5)	27 (10.1)	4 ( 7.0)	9 ( 8.5)	3 ( 5.1)	
合 計	235(100.0)	267 (99.9)	57(100.0)	106(100.0)	59(100.0)	

表14 二人っ子の組み合わせ別性格類型—①1989年調査— 単位：人(%)

類 型	全 体	弟のいる姉	妹のいる姉	兄のいる妹	姉のいる妹	検定の結果
A 類	104 (18.9)	32 (21.3)	28 (18.8)	17 (13.6)	27 (21.3)	
B 類	163 (29.6)	49 (32.7)	37 (24.8)	38 (30.4)	39 (30.7)	
C 類	31 ( 5.6)	6 ( 4.0)	13 ( 8.7)	8 ( 6.4)	4 ( 3.1)	
D 類	209 (37.9)	54 (36.0)	58 (38.9)	48 (38.4)	49 (38.6)	
E 類	44 ( 8.0)	9 ( 6.0)	13 ( 8.7)	14 (11.2)	8 ( 6.3)	
合 計	551(100.0)	150(100.0)	149 (99.9)	125(100.0)	127(100.0)	

表15 二人っ子の組み合わせ別性格類型—②1992年調査—

単位：人 (%)

類型	全 体	弟のいる姉	妹のいる姉	兄のいる妹	姉のいる妹	検定の結果
A 類	101 (20.1)	24 (18.8)	20 (16.0)	33 (23.7)	24 (21.8)	$\chi^2=11.831$ $df=12$ $P>.30$ 有意差なし
B 類	163 (32.5)	37 (28.9)	45 (36.0)	38 (27.3)	43 (39.1)	
C 類	24 ( 4.8)	5 ( 3.9)	8 ( 6.4)	5 ( 3.6)	6 ( 5.5)	
D 類	167 (33.3)	51 (39.8)	40 (32.0)	47 (33.8)	29 (26.4)	
E 類	47 ( 9.4)	11 ( 8.6)	12 ( 9.6)	16 (11.5)	8 ( 7.3)	
合 計	502(100.1)	128(100.0)	125(100.0)	139 (99.9)	110(100.1)	

表16 C尺度の標準点分布(二人っ子・三人っ子, 性別構成別, 1989年調査) 単位：人 (%)

標準点	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	女 1 人	男 1 人	女 2 人	女1男1人	男 2 人	
1	12 ( 4.3)	23 ( 8.4)	11 (15.3)	7 ( 5.3)	1 ( 1.8)	三人っ子： $\chi^2=15.916$ $df=8$ $P<.05$ 有意差あり
2	83 (30.1)	77 (28.0)	20 (27.8)	29 (21.8)	14 (25.5)	
3	122 (44.2)	105 (38.2)	27 (37.5)	56 (42.1)	29 (52.7)	
4	46 (16.7)	57 (20.7)	11 (15.3)	35 (26.3)	8 (14.5)	
5	13 ( 4.7)	13 ( 4.7)	3 ( 4.2)	6 ( 4.5)	3 ( 5.5)	
合 計	276(100.0)	275(100.0)	72(100.1)	133(100.0)	55(100.0)	

表17 C尺度の標準点分布(二人っ子・三人っ子, 性別構成別, 1992年調査) 単位：人 (%)

標準点	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	女 1 人	男 1 人	女 2 人	女1男1人	男 2 人	
1	15 ( 6.4)	19 ( 7.1)	6 (10.5)	4 ( 3.8)	2 ( 3.4)	三人っ子： $\chi^2=18.425$ $df=8$ $P<.02$ 有意差あり
2	47 (20.0)	48 (18.0)	9 (15.8)	33 (31.1)	19 (32.2)	
3	104 (44.3)	144 (53.9)	26 (45.6)	50 (47.2)	32 (54.2)	
4	52 (22.1)	43 (16.1)	11 (19.3)	18 (17.0)	5 ( 8.5)	
5	17 ( 7.2)	13 ( 4.9)	5 ( 8.8)	1 ( 0.9)	1 ( 1.7)	
合 計	235(100.0)	267(100.0)	57(100.0)	106(100.0)	59(100.0)	

表18 I尺度の標準点分布(二人っ子・三人っ子, 性別構成別, 1989年調査) 単位：人 (%)

標準点	二 人 っ 子		三 人 っ 子			検定の結果
	女 1 人	男 1 人	女 2 人	女1男1人	男 2 人	
1	11 ( 4.0)	18 ( 6.5)	9 (12.5)	6 ( 4.5)	6 (10.9)	二人っ子： $\chi^2=10.949$ $df=4$ $P<.05$ 有意差あり
2	51 (18.5)	58 (21.1)	16 (22.2)	24 (18.0)	5 ( 9.1)	
3	140 (50.7)	119 (43.3)	28 (38.9)	53 (39.8)	21 (38.2)	
4	64 (23.2)	55 (20.0)	16 (22.2)	41 (30.8)	22 (40.0)	
5	10 ( 3.6)	25 ( 9.1)	3 ( 4.2)	9 ( 6.8)	1 ( 1.8)	
合 計	276(100.0)	275(100.0)	72(100.0)	133 (99.9)	55(100.0)	

略する)。また、三人っ子において2回の調査で一貫して有意差が認められたC尺度も、同一傾向の特徴が確認されたわけではない。

したがって、これらの結果を総合してみると、きょうだいの性別構成と性格の間に何らかの関連があるということは、本研究では検証されない。

## Ⅳ ま と め

以上、きょうだい関係と性格の関連について、青年後期にあたる女子短大生を対象に標準性格検査（YG 検査）を実施して、多面的に実証的な検討を試みた。この結果、きょうだい関係の違いによる性格の差異は、ほとんど見出されなかった。統計的に有意な差は、少数の尺度においてしか認められず、有意差が認められた尺度の結果も、2回の実施において一貫性は認められなかった。したがって、本研究の結果でみる限り、「きょうだい関係と青年の性格は関連がある」とすることは検証されなかったことになる。

ただし、このような結果が得られたからといって、ただちに青年後期におけるきょうだい関係と性格の関連を全面的に否定するものではない。事実、ごく少数であっても、一部の尺度で差異が確認されたことは、青年後期においても、きょうだい関係による差異が存在（影響が残存）するかもしれない、という可能性を残しているのである。女子短大生であるという対象者の特殊性も考慮しなければならない。

一般的な解釈の仕方としては、ともすると「肯定されなかったので、否定された」としがちであるが、単純に「肯定でなければ、否定であろう」とするのは論理の飛躍である場合がある。肯定か否定かわからないもの、部分的に肯定で部分的に否定であるものを見落とす可能性があるからである。特に、対象の代表性が十分に確認されていない研究や、標本数を十分に確保しないで行なった研究では、「肯定でないので否定である」とすることによって、飛躍した解釈や結論を導き出してしまいう危険性がある。

この点から、本研究の対象者についてきょうだい関係による性格の差異が確認されなくても、他の対象者では差異が認められるという場合も考えられるので、YG 検査を別の対象者に実施する交差妥当性確認の研究が必要であり、また、男子を含めて、多数の対象者についてデータを集め、性別・発達段階別などを加味した詳細な分析・検討も必要である。

既存の研究には、青年後期・成人期の者を対象にしたものが少ないことも、一般化に慎重を要する点である。青年後期・成人期の者を対象に、他の標準性格検査や諸調査を実施するなど、多方面からのデータの蓄積を行なってからでないと、一般化や断定的な判断はできないであろう。仮に、幼少期の性格形成に大きかったきょうだい関係の影響が、年長になるにつれて次第に低減していくとすれば、どの発達段階まで影響を及ぼすのか、縦断的研究も必要である。

## 文 献

- 1) 青木利栄子・沢口直美：3人兄弟（姉妹）の性格特性に関する研究，札幌大谷短期大学保育研究，10集，4～9，1972.
- 2) 阿久井喜三郎：家族関係と性格との統計学的研究（第3報）— 同胞の数及び位置等による性格の相違 —，茨城大学教育学部紀要，12号，235～251，1962.
- 3) 有澤ひろみ・野村美和子・本郷理恵子：きょうだい関係と性格，札幌大谷短期大学保育研究，29

集, 157~166, 1991.

- 4) 池田敦美・内山敦子・片岡香利・勝浦由記子・佐伯美砂子：幼児の性格 — その診断検査と兄弟関係からみた性格 —, 札幌大谷短期大学保育研究, 20集, 57~62, 1982.
- 5) 井上栄子・東 洋一：出生順位についての研究, 日本保育学会第45回大会研究論文集, 44~45, 1992.
- 6) 岩井勇児：二人きょうだいの出生順位と性格 — 性差（兄弟, 兄妹, 姉弟, 姉妹）の検討 —, 日本教育心理学会第34回総会発表論文集, 170, 1992.
- 7) 岩井勇児・松井直美：2人きょうだいの出生順位と性格 — 兄弟・兄妹・姉弟・姉妹による違い —, 愛知教育大学研究報告, 42輯（教育科学編）, 41~53, 1993.
- 8) 白井珠代・森沢正子：きょうだい構成による性格について, 甲南大学文学会論集, 34号, 67~82, 1967.
- 9) 内海利恵・河野明子・小久保八重子・林 本子・吉田美和：家庭環境と性格形成との関連性, 札幌大谷短期大学保育研究, 27集, 89~99, 1989.
- 10) 江口淑子・大村まさこ・中村環穂・松本久美子：子どもの意識・性格と生活環境, 札幌大谷短期大学保育研究, 21集, 11~19, 1983.
- 11) 岡部彌太郎・若林 忠：同胞関係と性格形成 — 自叙伝による考察 —, 国際基督教大学学报 1 - A, 8号, 246~278, 1961.
- 12) 小沢莎智子・小館敦子・由良暁子・篠永克子・松平めぐみ・浜田妙子：一人っ子の性格の観察記録, 札幌大谷短期大学保育研究, 3集, 40~43, 1965.
- 13) 近藤宏美・島影雅子・関根端恵・高橋深雪・吉田弘子：家族構成による子どもの性格形成と親の態度, 札幌大谷短期大学保育研究, 19集, 126~131, 1981.
- 14) 下山 啓・NHK ひるのプレゼント班：兄弟姉妹人間学 — 人間の性格は出生順位で決まる —, 徳間書店, 1986.
- 15) 白佐俊憲：二人っ子の性格・行動の特徴, 二人っ子ならどう育つか（白佐俊憲, 富士書院）, 97~122, 1987.
- 16) 詫摩武俊・寺島文子：きょうだい間の関係と性格, 日本教育心理学会第10回総会発表論文集, 346~347, 1968.
- 17) 武内信子：女子大生のきょうだい関係に関する研究 — 2人きょうだいの家族関係や性格との関連 —, 日本教育心理学会第32回総会発表論文集, 123, 1990.
- 18) 武内信子：同胞構成と性格（I）— 女子青年の場合 —, 岡山心理学会発表資料, 1988.
- 19) 武内信子：同胞構成と性格（II）— 女子青年の場合 —, 岡山心理学会発表資料, 1990.
- 20) 野村泰代・平野文子：出生順位と性格特性に関する実験的研究 — 特に依存性と攻撃性について —, 家政学雑誌, 21巻1号, 71~74, 1970.
- 21) 長谷川さくら・堀籠千秋・保川麻紀：兄弟関係が性格形成に及ぼす影響, 札幌大谷短期大学保育研究, 30集, 272~280, 1992.

- 22) 浜崎信行・依田 明：出生順位と性格(2)― 3人きょうだいの場合 ―，横浜国立大学教育紀要，25集，187～196，1985.
- 23) 深津千賀子・依田 明：きょうだいの位置と性格，日本教育心理学会第5回総会発表論文集，1963.
- 24) 古畑和孝：一卵性双生児における性格差異と相互依存関係について，教育心理学研究，2巻2号，79～90，1954.
- 25) 松下 寛：一人子のパーソナリティの研究 ― 特に家族構成との関連から ―，日本心理学会第19回大会論文集，1955.
- 26) 三木安正・天羽幸子：双生児にみられる兄弟的性格差異と家庭での取扱い方 ― 双生児研究その二 ―，教育心理学研究，2巻3号，13～21，1954.
- 27) 三木安正・木村幸子：兄的性格と弟的性格 ― 双生児研究その一 ―，教育心理学研究，2巻2号，1～10，1954.
- 28) 森下正康・山口政子：パーソナリティときょうだい関係，和歌山大学教育学部紀要，教育科学編（第1分冊）41巻，85～102，1992.
- 29) 依田 明：出生順位と性格，きょうだいの研究（依田 明，大日本図書）43～80，1990.
- 30) 依田 明・飯嶋一恵：出生順位と性格，家庭教育研究所紀要，2号，23～29，1981.
- 31) 依田 明・飯嶋一恵：出生順位と性格，横浜国立大学教育紀要，21集，117～127，1981.
- 32) 依田 明・深津千賀子：出生順位と性格，教育心理学研究，11巻4号，47～54，1963.
- 33) 依田 明：きょうだい関係と性格，性格形成（依田 明責任編，性格心理学新講座，第2巻，金子書房）234～247，1989.
- 34) 辻岡美延：新性格検査法 ― YG 性格検査実施・応用・研究手引 ―，竹井機器工業，1967.
- 35) 八木俊夫・江口恒男：YG テストの実務手引き，日本心理技術研究所，1983.

(1993. 9. 7)

付表 1-1 D尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	136 (15.0)	65 (16.3)	17 (17.9)	45 (12.8)	9 (14.5)	$\chi^2=11.84$ $df=12$ $P>.30$ 有意差なし
2	264 (29.0)	98 (24.5)	30 (31.6)	117 (33.2)	19 (30.6)	
3	315 (34.7)	143 (35.8)	34 (35.8)	116 (33.0)	22 (35.5)	
4	136 (15.0)	65 (16.3)	10 (10.5)	54 (15.3)	7 (11.3)	
5	58 (6.4)	29 (7.3)	4 (4.2)	20 (5.7)	5 (8.1)	
合 計	909(100.1)	400(100.2)	95(100.0)	352(100.0)	62(100.0)	

付表 1-2 D尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	101 (12.1)	45 (12.9)	8 (9.8)	40 (12.1)	8 (10.8)	$\chi^2=4.52$ $df=12$ $P>.95$ 有意差なし
2	244 (29.2)	105 (30.1)	22 (26.8)	93 (28.1)	24 (32.4)	
3	306 (36.6)	126 (36.1)	31 (37.8)	123 (37.2)	26 (35.1)	
4	136 (16.3)	51 (14.6)	18 (22.0)	55 (16.6)	12 (16.2)	
5	49 (5.9)	22 (6.3)	3 (3.7)	20 (6.0)	4 (5.4)	
合 計	836(100.1)	349(100.0)	82(100.1)	331(100.0)	74 (99.9)	

付表 2-1 C尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	65 (7.2)	27 (6.8)	9 (9.5)	23 (6.5)	6 (9.7)	$\chi^2=11.24$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	245 (27.0)	111 (27.8)	21 (22.1)	101 (28.7)	12 (19.4)	
3	382 (42.0)	171 (42.8)	46 (48.4)	133 (37.8)	32 (51.6)	
4	174 (19.1)	72 (18.0)	16 (16.8)	77 (21.9)	9 (14.5)	
5	43 (4.7)	19 (4.8)	3 (3.2)	18 (5.1)	3 (4.8)	
合 計	909(100.0)	400(100.2)	95(100.0)	352(100.0)	62(100.0)	

付表 2-2 C尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	47 (5.6)	25 (7.2)	1 (1.2)	20 (6.0)	1 (1.4)	$\chi^2=15.40$ $df=12$ $P>.20$ 有意差なし
2	185 (22.1)	70 (20.1)	22 (26.8)	71 (21.5)	22 (29.7)	
3	410 (49.0)	170 (48.7)	37 (45.1)	170 (51.4)	33 (44.6)	
4	152 (18.2)	63 (18.1)	20 (24.4)	55 (16.6)	14 (18.9)	
5	42 (5.0)	21 (6.0)	2 (2.4)	15 (4.5)	4 (5.4)	
合 計	836 (99.9)	349(100.1)	82 (99.9)	331(100.0)	74(100.0)	

付表 3-1 I尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	54 (5.9)	27 (6.8)	6 (6.3)	18 (5.1)	3 (4.8)	$\chi^2=8.45$ $df=12$ $P>.70$ 有意差なし
2	177 (19.5)	80 (20.0)	14 (14.7)	69 (19.6)	14 (22.6)	
3	401 (44.1)	177 (44.3)	38 (40.0)	159 (45.2)	27 (43.5)	
4	224 (24.6)	97 (24.3)	32 (33.7)	81 (23.0)	14 (22.6)	
5	53 (5.8)	19 (4.8)	5 (5.3)	25 (7.1)	4 (6.5)	
合 計	909 (99.9)	400(100.2)	95(100.0)	352(100.0)	62(100.0)	

付表 3-2 I 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	47 ( 5.6)	20 ( 5.7)	5 ( 6.1)	17 ( 5.1)	5 ( 6.8)	$\chi^2=4.38$ $df=12$ $P>.95$ 有意差なし
2	162 (19.4)	77 (22.1)	14 (17.1)	56 (16.9)	15 (20.3)	
3	362 (43.3)	147 (42.1)	37 (45.1)	146 (44.1)	32 (43.2)	
4	211 (25.2)	85 (24.4)	20 (24.4)	88 (26.6)	18 (24.3)	
5	54 ( 6.5)	20 ( 5.7)	6 ( 7.3)	24 ( 7.3)	4 ( 5.4)	
合 計	836(100.0)	349(100.0)	82(100.0)	331(100.0)	74(100.0)	

付表 4-1 N 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	90 ( 9.9)	42 (10.5)	13 (13.7)	28 ( 8.0)	7 (11.3)	$\chi^2=7.43$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
2	255 (28.1)	113 (28.3)	26 (27.4)	99 (28.1)	17 (27.4)	
3	327 (36.0)	144 (36.0)	37 (38.9)	122 (34.7)	24 (38.7)	
4	193 (21.2)	83 (20.8)	14 (14.7)	85 (24.1)	11 (17.7)	
5	44 ( 4.8)	18 ( 4.5)	5 ( 5.3)	18 ( 5.1)	3 ( 4.8)	
合 計	909(100.0)	400(100.1)	95(100.0)	352(100.0)	62 (99.9)	

付表 4-2 N 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	76 ( 9.1)	39 (11.2)	6 ( 7.3)	28 ( 8.5)	3 ( 4.1)	$\chi^2=11.66$ $df=12$ $P>.30$ 有意差なし
2	216 (25.8)	91 (26.1)	22 (26.8)	81 (24.5)	22 (29.7)	
3	312 (37.3)	133 (38.1)	24 (29.3)	125 (37.8)	30 (40.5)	
4	199 (23.8)	71 (20.3)	26 (31.7)	85 (25.7)	17 (23.0)	
5	33 ( 3.9)	15 ( 4.3)	4 ( 4.9)	12 ( 3.6)	2 ( 2.7)	
合 計	836 (99.9)	349(100.0)	82(100.0)	331(100.1)	74(100.0)	

付表 5-1 O 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	56 ( 6.2)	23 ( 5.8)	7 ( 7.4)	22 ( 6.3)	4 ( 6.5)	$\chi^2=2.49$ $df=12$ $P>.99$ 有意差なし
2	155 (17.1)	70 (17.5)	13 (13.7)	64 (18.2)	8 (12.9)	
3	381 (41.9)	168 (42.0)	43 (45.3)	143 (40.6)	27 (43.5)	
4	235 (25.9)	103 (25.8)	24 (25.3)	91 (25.9)	17 (27.4)	
5	82 ( 9.0)	36 ( 9.0)	8 ( 8.4)	32 ( 9.1)	6 ( 9.7)	
合 計	909(100.1)	400(100.1)	95(100.1)	352(100.1)	62(100.0)	

付表 5-2 O 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	40 ( 4.8)	18 ( 5.2)	3 ( 3.7)	18 ( 5.4)	1 ( 1.4)	$\chi^2=9.58$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	120 (14.4)	46 (13.2)	13 (15.9)	46 (13.9)	15 (20.3)	
3	388 (46.4)	167 (47.9)	38 (46.3)	156 (47.1)	27 (36.5)	
4	216 (25.8)	86 (24.6)	23 (28.0)	82 (24.8)	25 (33.8)	
5	72 ( 8.6)	32 ( 9.2)	5 ( 6.1)	29 ( 8.8)	6 ( 8.1)	
合 計	836(100.0)	349(100.1)	82(100.0)	331(100.0)	74(100.1)	

付表 6-1 Co尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	36 (4.0)	13 (3.3)	5 (5.3)	15 (4.3)	3 (4.8)	$\chi^2=7.29$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
2	211 (23.2)	89 (22.3)	24 (25.3)	79 (22.4)	19 (30.6)	
3	365 (40.2)	166 (41.5)	38 (40.0)	139 (39.5)	22 (35.5)	
4	239 (26.3)	109 (27.3)	19 (20.0)	96 (27.3)	15 (24.2)	
5	58 (6.4)	23 (5.8)	9 (9.5)	23 (6.5)	3 (4.8)	
合 計	909(100.1)	400(100.2)	95(100.1)	352(100.0)	62 (99.9)	

付表 6-2 Co尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	33 (3.9)	19 (5.4)	2 (2.4)	11 (3.3)	1 (1.4)	$\chi^2=9.46$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	197 (23.6)	72 (20.6)	22 (26.8)	81 (24.5)	22 (29.7)	
3	328 (39.2)	143 (41.0)	31 (37.8)	129 (39.0)	25 (33.8)	
4	233 (27.9)	95 (27.2)	21 (25.6)	94 (28.4)	23 (31.1)	
5	45 (5.4)	20 (5.7)	6 (7.3)	16 (4.8)	3 (4.1)	
合 計	836(100.0)	349 (99.9)	82 (99.9)	331(100.0)	74(100.1)	

付表 7-1 Ag尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	29 (3.2)	14 (3.5)	1 (1.1)	12 (3.4)	2 (3.2)	$\chi^2=8.63$ $df=12$ $P>.70$ 有意差なし
2	236 (26.0)	107 (26.8)	26 (27.4)	94 (26.7)	9 (14.5)	
3	312 (34.3)	133 (33.3)	36 (37.9)	116 (33.0)	27 (43.5)	
4	252 (27.7)	112 (28.0)	23 (24.2)	97 (27.6)	20 (32.3)	
5	80 (8.8)	34 (8.5)	9 (9.5)	33 (9.4)	4 (6.5)	
合 計	909(100.0)	400(100.1)	95(100.1)	352(100.1)	62(100.0)	

付表 7-2 Ag尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	30 (3.6)	14 (4.0)	3 (3.7)	10 (3.0)	3 (4.1)	$\chi^2=8.42$ $df=12$ $P>.70$ 有意差なし
2	218 (26.1)	84 (24.1)	24 (29.3)	92 (27.8)	18 (24.3)	
3	286 (34.2)	123 (35.2)	25 (30.5)	116 (35.0)	22 (29.7)	
4	246 (29.4)	99 (28.4)	24 (29.3)	99 (29.9)	24 (32.4)	
5	56 (6.7)	29 (8.3)	6 (7.3)	14 (4.2)	7 (9.5)	
合 計	836(100.0)	349(100.0)	82(100.1)	331 (99.9)	74(100.0)	

付表 8-1 G尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位:人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	13 (1.4)	3 (0.8)	1 (1.1)	7 (2.0)	2 (3.2)	$\chi^2=12.07$ $df=12$ $P>.30$ 有意差なし
2	117 (12.9)	46 (11.5)	11 (11.6)	50 (14.2)	10 (16.1)	
3	434 (47.7)	183 (45.8)	49 (51.6)	170 (48.3)	32 (51.6)	
4	283 (31.1)	140 (35.0)	30 (31.6)	100 (28.4)	13 (21.0)	
5	62 (6.8)	28 (7.0)	4 (4.2)	25 (7.1)	5 (8.1)	
合 計	909 (99.9)	400(100.1)	95(100.1)	352(100.0)	62(100.0)	

付表 8-2 G 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	19 ( 2.3)	4 ( 1.1)	3 ( 3.7)	10 ( 3.0)	2 ( 2.7)	$\chi^2=7.37$ $df=12$ $P>.80$ 有意差なし
2	135 (16.1)	54 (15.5)	13 (15.9)	56 (16.9)	12 (16.2)	
3	389 (46.5)	164 (47.0)	35 (42.7)	156 (47.1)	34 (45.9)	
4	259 (31.0)	109 (31.2)	28 (34.1)	97 (29.3)	25 (33.8)	
5	34 ( 4.1)	18 ( 5.2)	3 ( 3.7)	12 ( 3.6)	1 ( 1.4)	
合 計	836(100.0)	349(100.0)	82(100.1)	331 (99.9)	74(100.0)	

付表 9-1 R 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	12 ( 1.3)	5 ( 1.3)	1 ( 1.1)	4 ( 1.1)	2 ( 3.2)	$\chi^2=4.79$ $df=12$ $P>.95$ 有意差なし
2	49 ( 5.4)	21 ( 5.3)	5 ( 5.3)	20 (5.7)	3 ( 4.8)	
3	262 (28.8)	119 (29.8)	25 (26.3)	101 (28.7)	17 (27.4)	
4	366 (40.3)	151 (37.8)	40 (42.1)	148 (42.0)	27 (43.5)	
5	220 (24.2)	104 (26.0)	24 (25.3)	79 (22.4)	13 (21.0)	
合 計	909(100.0)	400(100.2)	95(100.1)	352 (99.9)	62 (99.9)	

付表 9-2 R 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	10 ( 1.2)	6 ( 1.7)	0 ( - )	4 ( 1.2)	0 ( - )	$\chi^2=21.45$ $df=12$ $P< .05$ 有意差あり
2	65 ( 7.8)	26 ( 7.4)	9 (11.0)	24 ( 7.3)	6 ( 8.1)	
3	212 (25.4)	79 (22.6)	20 (24.4)	97 (29.3)	16 (21.6)	
4	354 (42.3)	146 (41.8)	34 (41.5)	149 (45.0)	25 (33.8)	
5	195 (23.3)	92 (26.4)	19 (23.2)	57 (17.2)	27 (36.5)	
合 計	836(100.0)	349 (99.9)	82(100.1)	331(100.0)	74(100.0)	

付表10-1 T 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1989年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	9 ( 1.0)	5 ( 1.3)	1 ( 1.1)	2 ( 0.6)	1 ( 1.6)	$\chi^2=15.90$ $df=12$ $P> .10$ 有意差なし
2	121 (13.3)	53 (13.3)	11 (11.6)	50 (14.2)	7 (11.3)	
3	361 (39.7)	150 (37.5)	34 (35.8)	149 (42.3)	28 (45.2)	
4	284 (31.2)	143 (35.8)	31 (32.6)	98 (27.8)	12 (19.4)	
5	134 (14.7)	49 (12.3)	18 (18.9)	53 (15.1)	14 (22.6)	
合 計	909 (99.9)	400(100.2)	95(100.0)	352(100.0)	62(100.1)	

付表10-2 T 尺度の標準点分布 (出生位置別, 1992年調査)

単位: 人 (%)

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	6 ( 0.7)	3 ( 0.9)	1 ( 1.2)	2 ( 0.6)	0 ( - )	$\chi^2=13.06$ $df=12$ $P> .30$ 有意差なし
2	96 (11.5)	39 (11.2)	8 ( 9.8)	41 (12.4)	8 (10.8)	
3	318 (38.0)	130 (37.2)	24 (29.3)	142 (42.9)	22 (29.7)	
4	284 (34.0)	125 (35.8)	32 (39.0)	99 (29.9)	28 (37.8)	
5	132 (15.8)	52 (14.9)	17 (20.7)	47 (14.2)	16 (21.6)	
合 計	836(100.0)	349(100.0)	82(100.0)	331(100.0)	74 (99.9)	

付表11-1 A尺度の標準点分布（出生位置別，1989年調査）

単位：人（％）

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	13 ( 1.4)	7 ( 1.8)	1 ( 1.1)	3 ( 0.9)	2 ( 3.2)	$\chi^2=10.98$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	63 ( 6.9)	28 ( 7.0)	8 ( 8.4)	26 ( 7.4)	1 ( 1.6)	
3	373 (41.0)	165 (41.3)	37 (38.9)	143 (40.6)	28 (45.2)	
4	364 (40.0)	151 (37.8)	43 (45.3)	147 (41.8)	23 (37.1)	
5	96 (10.6)	49 (12.3)	6 ( 6.3)	33 ( 9.4)	8 (12.9)	
合 計	909 (99.9)	400(100.2)	95(100.0)	352(100.1)	62(100.0)	

付表11-2 A尺度の標準点分布（出生位置別，1992年調査）

単位：人（％）

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	9 ( 1.1)	3 ( 0.9)	2 ( 2.4)	3 ( 0.9)	1 ( 1.4)	$\chi^2=9.06$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	67 ( 8.0)	31 ( 8.9)	6 ( 7.3)	23 ( 6.9)	7 ( 9.5)	
3	316 (37.8)	120 (34.4)	32 (39.0)	139 (42.0)	25 (33.8)	
4	360 (43.1)	155 (44.4)	36 (43.9)	138 (41.7)	31 (41.9)	
5	84 (10.0)	40 (11.5)	6 ( 7.3)	28 ( 8.5)	10 (13.5)	
合 計	836(100.0)	349(100.1)	82 (99.9)	331(100.0)	74(100.1)	

付表12-1 S尺度の標準点分布（出生位置別，1989年調査）

単位：人（％）

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	7 ( 0.8)	3 ( 0.8)	0 ( - )	3 ( 0.9)	1 ( 1.6)	$\chi^2=9.83$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	67 ( 7.4)	33 ( 8.3)	6 ( 6.3)	21 ( 6.0)	7 (11.3)	
3	244 (26.8)	101 (25.3)	28 (29.5)	100 (28.4)	15 (24.2)	
4	392 (43.1)	170 (42.5)	41 (43.2)	160 (45.5)	21 (33.9)	
5	199 (21.9)	93 (23.3)	20 (21.1)	68 (19.3)	18 (29.0)	
合 計	909(100.0)	400(100.2)	95(100.1)	352(100.1)	62(100.0)	

付表12-2 S尺度の標準点分布（出生位置別，1992年調査）

単位：人（％）

標準点	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	検定の結果
1	7 ( 0.8)	2 ( 0.6)	1 ( 1.2)	3 ( 0.9)	1 ( 1.4)	$\chi^2=9.64$ $df=12$ $P>.50$ 有意差なし
2	67 ( 8.0)	26 ( 7.4)	6 ( 7.3)	30 ( 9.1)	5 ( 6.8)	
3	232 (27.8)	91 (26.1)	27 (32.9)	95 (28.7)	19 (25.7)	
4	364 (43.5)	166 (47.6)	32 (39.0)	139 (42.0)	27 (36.5)	
5	166 (19.9)	64 (18.3)	16 (19.5)	64 (19.3)	22 (29.7)	
合 計	836(100.0)	349(100.0)	82 (99.9)	331(100.0)	74(100.1)	